

# 宮織のあゆみ'96



沖縄県土木建築部施設建築室

## 目 次

1.目次	1
2.参考資料	
予算分任及び事業の流れ	1
過去5年間の工事費及び工事件数推移	2
3.あいさつ	2
4.特集1、沖縄県立武道館アリーナ棟	3
特集2、久米島空港旅客ターミナルビル	5
特集3、沖縄県消防学校	7
公開プロポーザル・エスキス競技	
沖縄県総合福祉センター（仮称）設計プロポーザル・エスキス競技	9
5.工事紹介	
総務部	10
生活福祉部	11
環境保健部	13
病院管理局	14
農林水産部	15
商工労働部	17
観光文化局	17
土木建築部	18
教育庁	22
6.工事概要一覧	25
7.沖縄県行政機構図	29
8.編集スタッフ・編集後記	30



## 特集1 沖縄県立武道館アリーナ棟



### 建物概要

所在地 沖縄県那覇市奥武山町  
 工期 H7.12.21~H9.3.31  
 構造 SRC造 地上2階地下1階  
 延面積 7,660.735㎡  
 高さ 軒高さ GL+12.5m  
 最高の高さ GL+28.5m  
 駐車台数 85台(地下65台地上20台)  
 総工事費 3,265,247千円  
 設計 沖縄県立武道館(仮称)  
 実施設計共同企業体

この作品は、沖縄県の復帰20周年記念の一環として県内公開設計競技の下落選案として設計された。

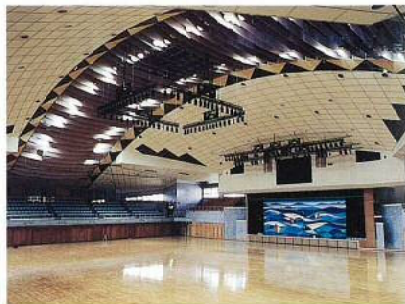
計画地は、米軍用地であった那覇サービスセンターを敷地に加える為、日米合同委員会の返還合意の後建設に至ったという経緯がある。

沖縄の先人たちがそうであったように、沖縄の武道である空手が海を渡り世界にはばたいていったイメージと、新生沖縄が世界に向けてはばたいていくという意味をこめ、流に向かう龍をイメージした屋根のデザインで印象に残るスカイラインを創った。

全体構成は2棟によるL型配置のコーナーに広場をもち、此処を出会いとふれあいの場として施設へのメインアプローチとする。アリーナ棟と錬成道場棟は、動と静とゾーン分けされ、それぞれが国道と公園に向きながら周辺に調和する。陸橋から国道を越えデッキでつながるプロムナードは、両端的空間となり海と公園とを結び、語らいや憩いの場となる。全体的に彫りが深く、沖縄の暑い陽差しから内部を守るように外部空間を造った。また使い易さとやさしい施設造りをめざし、利用形態による動線を明快にしなが様々な使用にも耐えられるよう配慮し、且つ、利用者にとって愛着のわく施設となるよう設計した。

### 施設概要

外部仕上げ 屋上/チタンダル仕上げ  
 外壁/コンクリート打ち放し一部石貼り  
 園路/透水性舗装  
 津梁プロムナード、蓮葉広場中庭/石敷き  
 内部仕上げ (アリーナ棟)  
 床/18mmナラ集成フローリング塗装仕上げ  
 壁/天然木練付合板及び有孔合板、ラワン合板塗装仕上げ  
 天井/グラスウールボード張り  
 競技フロア 約2,142㎡(51m×42m)  
 観客席 (固定1319席 可動900席×剣道、柔道6面、空手8面、なぎなた4面)  
 (ハンドボール、バレーボール2面、バドミントン8面)  
 舞台 約119㎡(7m×17m)



### イメージの設定から表現へ

設計競技当初からのイメージである「世界と結び沖縄武道の精神」を万国梁の気概と沖縄らしさの中に表現する為、近代的手法を用いてシンボリックな以下のような形づくりとした。

- (1)海へ伸びるイメージの表現
- (2)躍動感の中にも秩序とリズムが感じられる表現
- (3)沖縄の風景に映える景観構成
- (4)沖縄建築の特徴である彫りの深さと開放性の表現

### 配置及び外部計画について

#### (アリーナ棟)

アリーナ棟は導入道路である国道側の活気のあるゾーンにあり、大会や各種イベントの時に多数の観客をスムーズに導入し、安全に目入りできる位置とし、その大きなボリュームは広場や錬成道場棟を厳しい西日や海風、騒音から守りながら県道の玄関口としてのシンボル性を形として見せてくれている。

#### (外部動線)

車と人の動きを明確に区分し車の進入範囲を国道側に限定した、人の進入は、公園内のどこからでも、できるようにしながら老人や身障者でも入りやすい構造とした。

#### (人の動き)

アリーナ棟、錬成道場棟とも共に、メインの出入口は広場側に向き多数の人の出入りに混雑しない広さでアプローチでき、サービスエリアと来館者とは交差を避け、機能的で多様な動きができる。

#### (車の動き)

車の進入経路と駐車エリアを、用途により区分しサービス車は、サービス動線につなぐ、国道側に車の乗降スペースやバスの駐車スペースをもち、公園進入路と一体に計画したロータリー化により、車の出入りを安全でスムーズなものにする。



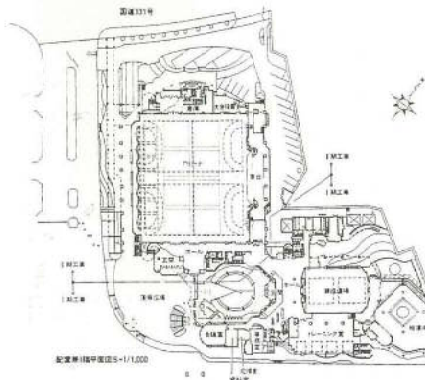
### 空間構成と特徴

#### (アリーナ棟)

武道大会を優先とするが、各種スポーツ、イベント等にも多目的使用できる空間をもち、観客数の変動も変席により、対応する機構、照明、音響設備等は専用の舞台だけでなく、アリーナ全体をカバーして他用途にこたえる。また大空間は通風、採光を調整しながらも全館空調で、大型スクリーンは映像だけではなく多くの機能を補充する。

県内では初めて、体育施設としては、大型映像設備と大家根全体にチタン材を使用し、曲面の天井内は大空間をカバーする空調機や、トップライト等、その他照明、音響設備等の入る大きなスペースがあり、また65台分の地下駐車場の下は、雨水利用の為の雨水タンクが設けられ、施設の雑用水として利用している。

これまでの武道館のもつイメージから離れた形の武道館となったが、次の世代に支持される新しいイメージの武道館づくりをめざした結果としている。一般県民はこれまでの武道館と比較し多少はとまどいはあったと思うが、子供達が「ドラゴンボール」とか「ガンダム」と形容しており、すでに彼らは新しい武道館を受け入れ親しんでいるようだ。これからも永く県民に利用され愛着のもてる武道館であってほしいと思う。





## 特集2 久米島空港旅客ターミナルビル



### 久米島空港ターミナルビル

#### 配置計画

空港旅客ターミナルビル配置計画における重要な要素は、

1. 旅客動線の短縮化
2. エプロン計画とカーブサイド計画の整合化
3. ビル機能を円滑に運用するためのサービスヤード計画
4. 将来の拡張計画との整合化
5. 既存空港を運用しつつ建設を行う場合は、既存施設に支障を及ぼさないことがあげられる。

次に久米島空港ターミナルビル地域計画の特徴は、

- ①. カーブサイドとランドサイドとの約1層分の段差
- ②. ターミナルビル用地の全面のうち約半分しかエプロンに面していない変則配置であること。
- ③. 既存空港を運用しつつ建設を行うことがあげられる。

以上の要素、特徴を生かし以下の特徴を持つ配置計画を行った。

- ・空港規模を考慮し、かつ①の特徴を有効に生かすため出発・到着機能を同一平面とすることにより、旅客動線に縦移動のない動線の実現をはかる。
- ・既存施設(気象庁舎、ターミナルビル)の移行行程をつかむことにより、3スポットのエプロンのうち航空機がもっとも使いやすい、中央スポットにアクセスでき、かつ建物をエプロンの全面に配置するとともに、北側ターミナル用地をエプロン拡張計画にあわせ増築用地とした。

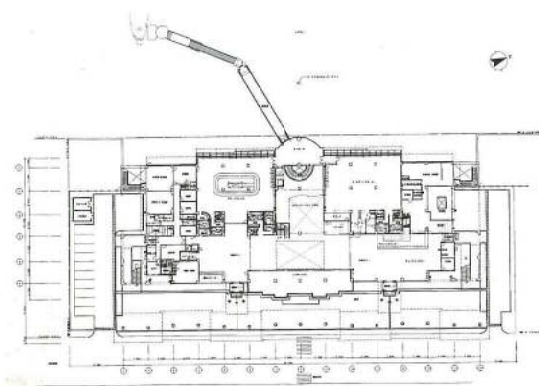
所在地 沖縄県島尻郡具志川村字北原

工期 H7.12.21~H9.3.20

構造 RC造 地上3階地下1階

延面積 4,984㎡

総工事費 1,790,021千円



外構の考え方を下図にまとめる。

#### エアサイド

- ・GSE車輛の円滑なマナーパリング
- ・空港管理車輛留場
- ・オープンスペースへの動線

#### サービスヤード(南)

- ・一部拡張はあるがその拡張要素を北側へ設けることにより拡張時にも建物が機能するようにする。

- ・建物付庫施設
  - ・ゴミ集積場
  - ・プロパンガスボンベ庫
  - ・オイルタンク

- ・サービス車輛留場
  - ・警察車輛
  - ・ビル管理車輛
  - ・テナント車輛
  - ・物品搬入車輛

#### 旅客ターミナルビル

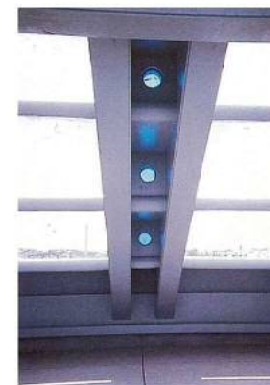
#### サービスヤード(北)

- ・全面的拡張用地
- ・積込貨物、車輛マナーパリング
- ・サービス車輛留場(航空会社)

#### カーブサイド

- ・車輛へのスムーズな乗降
- ・建物出入口への横歩き
- ・ミーティングポイントとしての機能
- ・チェックインロビー、到着ロビー
- ・奥行方向へのバッファゾーン

庇の採用





# 特集3 沖縄県消防学校



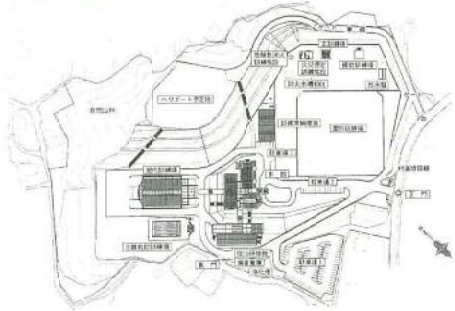
## 目的

県民の願いである「安全で快適な生活の確保」をめざし、消防職員及び消防団員の教育訓練の充実を図るとともに、県民に対し、防災意識の普及啓発、防災技術を習得することができる場として「沖縄県消防学校」を整備する。

## 基本的性格

「沖縄県消防学校」は、消防組織法第26条に基づく消防学校の機能に加え、県民に対する防災意識の高揚及び防災意識の普及、民間防災組織等に対する教育訓練機関として、大規模災害時の後方支援拠点としての機能を併せ持つ施設とする。

## 施設配置図



## 施設概要

**所在地** 沖縄県中頭郡中城村字北原910番地  
**工期** H7.10.18～H8.10.31  
**敷地面積** 66,421.37㎡  
**建築面積** 4,574.82㎡  
**延面積** 7,435.88㎡  
**総工費** 2,521,696千円

施設名称	構造・規模	延面積	階数	主要用途
本館	RC造 地上2階建	1,536㎡	1F 2F	収容室、職員室、外来講習教室、会議室、研修室、拜明室、事務室、多目的ホール、講堂、大教室、普通教室(2室)、理化学教室、資料室、休憩コーナー
宿泊研修館	RC造 地下1階 地上3階建	2,330㎡	6F 7F 8F	備蓄倉庫、電気室、ボイラー室、温水槽室、管理、印刷、図書、ホール、各教室×10室、研修室、普通室、音楽室、美術室、洗浴室、玄関ホール、各教室×10室、緑地室、洗浴室、洗濯室、ホール
屋内訓練場	RC造一部RC造 地上2階建	1,822㎡	2F	アリーナ(24M×96M)、器用庫、備品倉庫、消防自動車スペース、玄関ホール、ジョギングコース、多目的ホール
水難救助訓練場	RC造 地上2階建	4,333㎡	2F	男女更衣室、シャワー室、受付、プール(138M×25M、水深1.5M～1.7M・6M)
訓練車輛庫	RC造 地上1階建	438㎡	1F	訓練、受付
主訓練塔	SRC造 地下1階 地上8階建	766㎡	6F 7F 8F 9F 10F	主訓練塔 地下火災訓練室 消防設備訓練室 訓練器材倉庫 安全ネット操作室 救助訓練室 避難訓練室 ロープ技術訓練室 目下訓練室 消防署ごとの火災救助訓練室 消防署ごとの火災救助訓練室
火災想定訓練塔	RC造 地上2階建	111㎡	2F	火災想定訓練塔、ポンプ室、火災想定訓練室

施設名称	概要
水難救助訓練場	クレーン機一部アスファルト舗装(120M×100M)、夜間訓練用照明設備
消防訓練塔	放水訓練室(地下水深50cm)、防火水槽100L、訓練用消火栓4ヶ所
危険物燃焼塔	直径3M、RC造訓練シムガワ
駐車場	駐車庫1(183台)、駐車庫2(16台)、駐車庫3(6台)、計105台

## 整備の基本方針

消防学校の施設、人員及び運営の基準(昭和45年4月19日消防庁告示第1号)に基づき、消防教育水準の維持向上が図られる施設とし、併せて、本県の消防防災体制確立の推進拠点となるよう、次の機能を備える施設とする。

### (機能)

#### ①専門教育訓練部門

- ア、消防職員及び消防団員に対する専門的教育訓練機能。
- イ、消防機関の訓練等に対する援助機能。

#### ②一般教育訓練部門

- ア、防災知識、技術的教育訓練機能。
- イ、防災に関する展示機能。
- ウ、防災意識の高揚のための事業の企画、実施機能。
- エ、地域防災機関等の中核役割機能。

#### ③災害時後方支援部門

- ア、防災資機材の備蓄機能
- イ、災害時の救援物資等の集積機能
- ウ、大規模災害の訓練機能
- エ、消防防災ヘリポート機能



▲全景 ▼本館 本館▼



## 訓練施設(訓練棟)

訓練塔は、屋外訓練場に面して、主訓練塔、補助訓練塔、火災想定訓練施設を直線上に配置しています。訓練塔では、実際の多様な火災現場や災害現場を想定した火災防訓練や救助訓練が実施されます。

また、主訓練塔と補助訓練塔を地下道で連結し、立抗訓練・消防設備訓練等、他、可動間仕切りを用いた迷宮室を設け暗検索訓練等の充実を図るようになっています。



▲主訓練塔



▲屋内訓練場

## 屋内訓練場

消防体育教科及び防災時における消防訓練の屋内訓練施設です。

消防操法の訓練時には、実際にポンプ車を用いての訓練を実施するため、屋内に消防車を駐車できるスペースを確保しています。

2階部分には、多目的な訓練スペースやジョギングコースを設けて訓練生の自主トレーニングができます。

## 宿泊研修館

教育訓練期間中は、宿泊研修が原則で、訓練生80名の収容が可能です。

宿泊室は、4名部屋で、2階部分に10室、3階部分に10室の計20室です。

女性団員、婦人・幼少年防火クラブ員等の入校に対応するため、2室を宿泊領域が区別できるよう配置しています。

## 本館

施設全体の中央に位置し、教育棟及び管理棟としての機能を持ちます。

1階部分は、管理部門として職員室、校長室、講師控室等で構成され、2階部分は、教室部門として講堂、大教室、普通教室、理化学教室で構成されています。



▼プール▲



## 宿泊研修館



## 水難救助訓練場

水難救助訓練に伴う水上救助法習得及び消防体育の実施に伴う水泳訓練のための施設です。

長さ25m、幅13mで、海洋レジャー等での災害に対応する水難救助隊員養成のため、プールの端には水深6mの部分をつけています。





公開プロポーザル・エスキス競技  
**沖縄県総合福祉センター(仮称)**  
 設計プロポーザル・エスキス競技

21世紀の本格的な高齢化社会の到来を間近に迎えようとしている今日、社会福祉に対する県民のニーズは増大し、多様化しております。

沖縄県総合福祉センター(仮称)は、これに対応して県民に社会福祉への理解を求め、福祉活動に対する積極的な参加を促進するため、福祉に関するあらゆる情報の収集、各種社会福祉サービスの提供、福祉の担い手の養成等総合的な機能を備えた社会福祉の拠点となる施設を目指し建設するものです。

このプロポーザル・エスキス競技は平成8年度に実施され応募総数43点の中から、DREAM(代表福村俊治)が最優秀賞として選定されました。

### 沖縄県総合福祉センター(仮称)設計コンセプト 福祉に対する基本的な考え方

福祉施設として、ただの「箱物」を造る時代は終わった、21世紀の本格的な高齢化社会を迎えようとする今日、私たちの誰もが福祉の対象となりうる事を考えれば、「皆が支えあう、ぬくもりのある福祉社会、福祉環境」を早急につくらねばならない。

これまでの施設は、高齢者や身障者などの人々が、「福祉」という名の保護や援助を授かる場として、福祉施設がつくられてきた。今、すべての人が支え合うことのできる「箱」ではなく「場」としての福祉社会や環境をつくらねばならない。

「バリアフリー」という言葉がある。高齢者や身障者が生活してゆく上での障壁をなくすこと、つまり、段差をなくしたり、身障者エレベーターを設けるなどの物理的な事は当然のことであり、高齢者や身障者などの人々と、一般の人々との間にあった見えない精神的な壁を無くし、同一の社会で互いに支え合い生きてゆくことこそが、バリアフリーの精神のもっとも大切なところである。

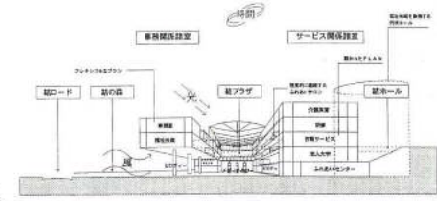
敷地のある首里石嶺は、数多くの福祉施設が集まっており、これまで地域住民とも深い関わりを持ち続けてきた。

### 結ブラザ

既存のグラウンドの広さを丸ごと確保して、列柱によるピロティと大屋根とで気持ちのよいオープンスペースとなっている。

### 明快なゾーニング

事務所機能とサービス機能を敷地の手前と奥の二つのブロックに分ける。ブリッジを渡して両者の往来を容易にしている。利用者にとってのわかり易さと、様々な施設機能に対応できるようになっている。



この福祉センターの敷地であるオープンスペースは、福祉まつりをはじめ、数多くの福祉の催しが行われ、福祉関係者と地域住民との交流の場であった。

この福祉センターが沖縄の社会福祉活動の拠点施設であるためには、

1. ふれあい交流のための場(オープンスペース)をつくること。
2. 社会福祉の総合センターとして最新機能を備えた施設とすること。
3. 沖縄の風土を生かした新しい福祉のシンボリックな施設とすること。
4. 隣接の福祉施設とうまく関連をもたせることが大切である。

## 総務部



名称: 沖縄県立芸術大学  
 福利厚生博士課程棟新築工事  
 所在地: 那覇市  
 工期: H8.10.25~H9.3.28  
 構造: RC造 地上2階地下1階  
 延面積: 964㎡  
 総工事費: 389,147千円



### 県立芸大福利厚生博士課程棟の建築計画の概要

#### ①配置計画

首里当蔵町の主要道路(県道40号線)に接する角地部分(敷地北端)に公的な小広場を確保すること、さらに県道49号(守礼の門から県道40号へ通ずる道路)に沿う歩道巾(現況は1.5m~1.8m程度)をさらに広げるため、当該敷地東側の境界線を西側へ1.0mセットバックした範囲に建物壁面を納めた、そのことにより、北から南(首里城方面)へ抜ける歩行空間のゆとりが実現できる。

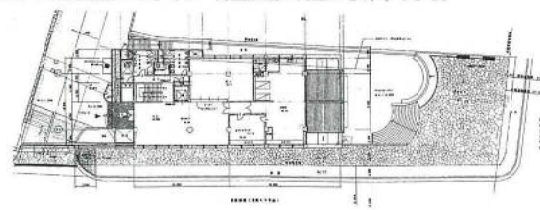
#### ②建築床面積の構成と外観について

建物全体は三層のラーメン構造であるが、第1種住居専用地域としての法的規制による高さ制限を考慮して、建物全体を半地下に沈めることにより、外観としてのボリューム感を抑制した。さらに、北から南へ段状にセットバックしながら高まっていく勾配屋根(赤瓦)の造形によって、南側の既存建物(芸大管理棟)への連続感をだし、逆に敷地北側の外部空間の拡がりを強調した。

#### ③外部空間の構成

1階部分(学生食堂)を半地下にすることにより計画された南側のサンクンガーデンは学食内部から外部へ連続する外部空間として活用できる。さらに、その空間と上部の広場にも大型樹木を植栽することにより、緑陰豊かな外部空間の連続感を創出する。

なお、これらのオープンスペースは、既存のバス停と隣接しており、より効果的な公共の利用が期待でき、道路沿いとしての街並景観の向上にも寄与できる。



#### ④外構整備計画

北側広場は、歩道空間との一体化を図りながら、芸大祭、彫刻展示広場、首里祭り等、多目的広場として、近隣住民や観光客等の憩いの場としても利用できるように整備する。

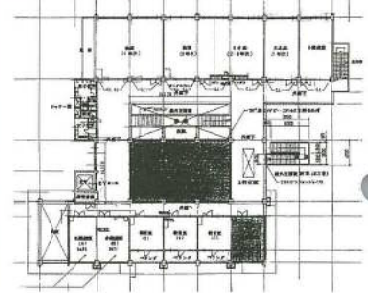
当該敷地における歩行スペースは、県道49号線及び県道40号線沿いの歩道空間に連列し、一体となったスペースを提供することとし、また、当該部分の仕上げについても首里城公園へのアプローチでもあり歩道部分は琉球石灰岩張りとし、広場については張り芝とすることで景観性を高めることとする。

植栽計画については、既存木を活用しつつ、緑陰効果の高いアカギ等の植栽を行い、また、県道交差点の角地にはガジュマルの植栽を行い、シンボル性を高め、首里城公園へのゲート性をもたせる。

県道49号線沿いの建物の外壁の一部及び扉は琉球石灰岩張りとし、歩道部分との調和を図りつつ、植栽スペースはそれにふさわしい植栽を行う。



名称：沖縄県立芸術大学  
美術棟増築工事（その2）  
所在地：那覇市  
工期：H8.3.12~H8.8.8  
構造：RC造 地上2階地下1階  
延面積：209㎡  
総工事費：194,743千円



## 生活福祉部



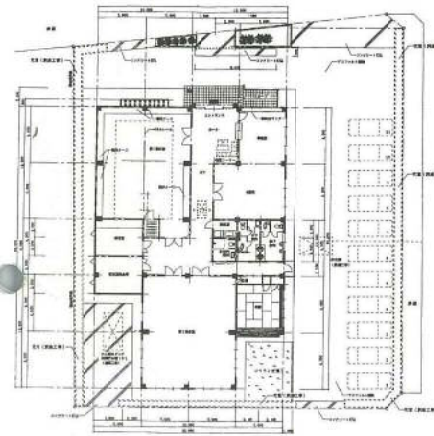
名称：首里厚生園屋根防水工事  
所在地：那覇市  
工期：H9.3.6~H9.3.25  
構造：—  
延面積：—  
総工事費：13,081千円

名称：八重山平和祈念館建設工事  
所在地：石垣市  
工期：H8.12.27~H9.3.31  
構造：RC造地上1階  
延面積：520㎡  
総工事費：159,856千円



### 祈念館・慰霊之碑建設概要

太平洋戦争の末期、沖縄県八重山地域においては、軍の作戦展開の必要性から住民が悪性マラリアの有病地域である石垣島、西表島の山間部への非難を強いられ、過酷な生活の中で相次いでマラリアに罹患し、三千余名が終戦前後に無念の死を遂げるに至った。国は、終戦から50年を経た平成8年度にこれらの犠牲者の御霊を慰めるため、本県へ「八重山地域マラリア感謝事業」の助成が行われ、その事業の一環として八重山平和祈念館・八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建設が行われた。平和祈念館は、マラリア死没者を悼み、さらに平和を祈念するために、マラリア死没者の遺品等の資料を展示するとともに、地域住民の利用に供するよう建設された。慰霊碑については、同事業の一環として遺族からなる「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者後援会」の協力を得て建立されたものであり、遺族がその思いを込めて御霊の名を小石に記し碑の中に納めている。



名称：八重山戦争マラリア犠牲者  
慰霊之碑建立工事  
所在地：石垣市  
工期：H8.12.16~H9.3.10  
構造：RC造  
延面積：—  
総工事費：40,685千円